

CITY OF YOKOHAMA

循環型社会への加速に向けた
日本初「地区の資源循環の可視化」
を開始

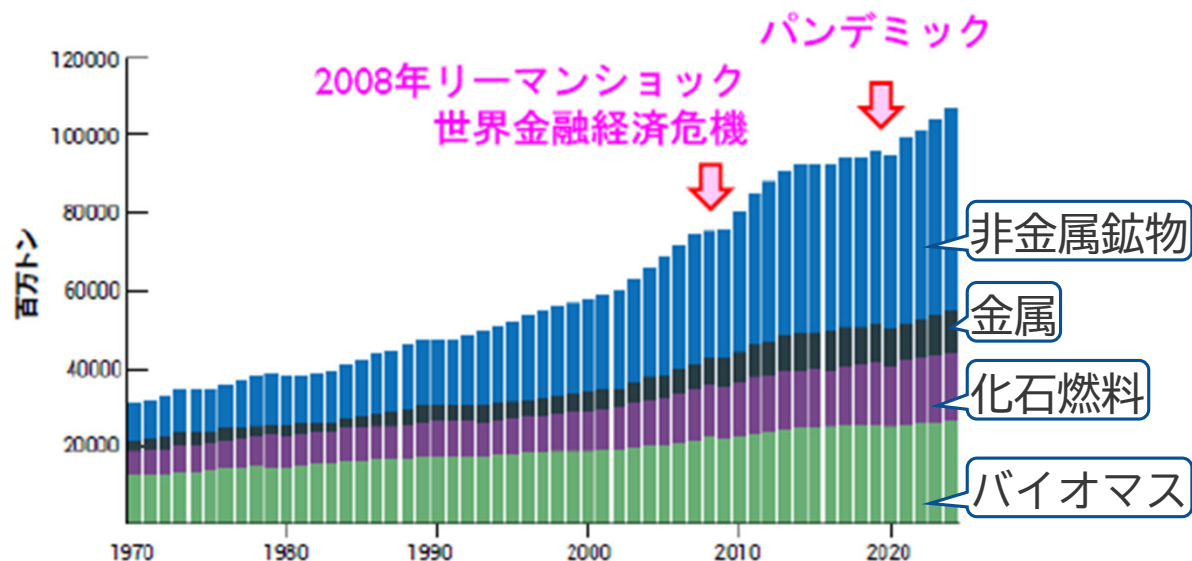
令和7(2025)年2月13日
市長定例記者会見

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

資源循環を取り巻く世界の状況

- 資源の消費量は過去50年間で3倍以上に増加（1970年比）
- 2060年までに5.2倍（1970年比）に増加する可能性
⇒消費増大に伴い、気候災害の激甚化、生物多様性の損失の加速化

主要な資源ごとの世界全体の採取量

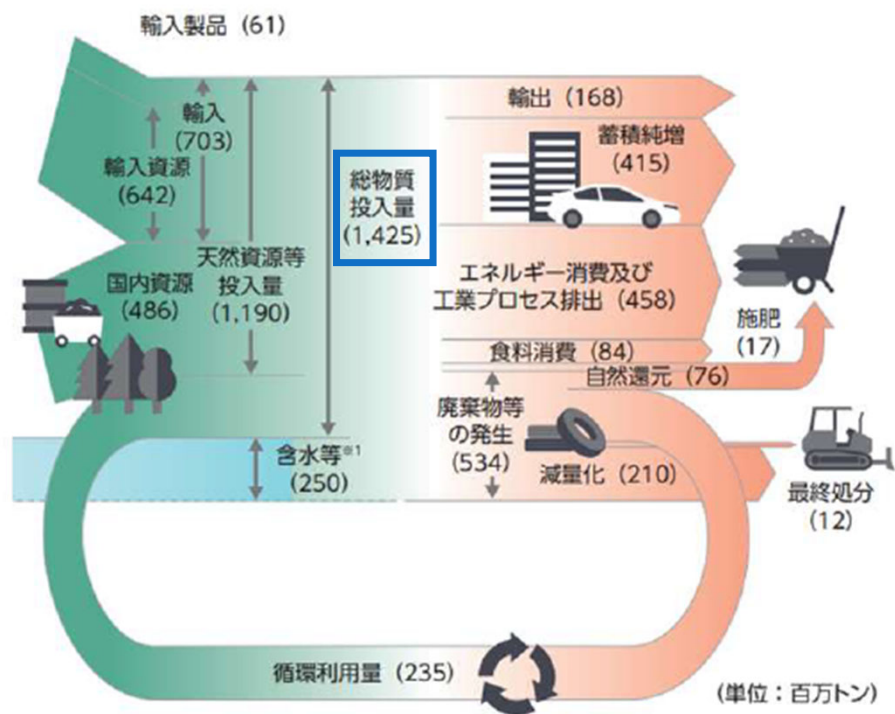


出典：国連環境計画 国際資源パネル
(UNEP-IRP: International Resource Panel)

- 欧州では、新車製造時の再生材の最低含有率（25%）の義務化が提案されるなど、今後、リサイクル資源の利用の義務化 が拡大すると見込まれる

- 資源循環分野の競争力強化
- 循環型社会の実現
に向けた取組強化が求められる

日本政府が定める「循環型社会形成推進基本計画」では、資源循環の取組を推進するため、どれだけの資源を採取、消費、廃棄しているかというものの流れ（物質フロー）の全体像を示している。

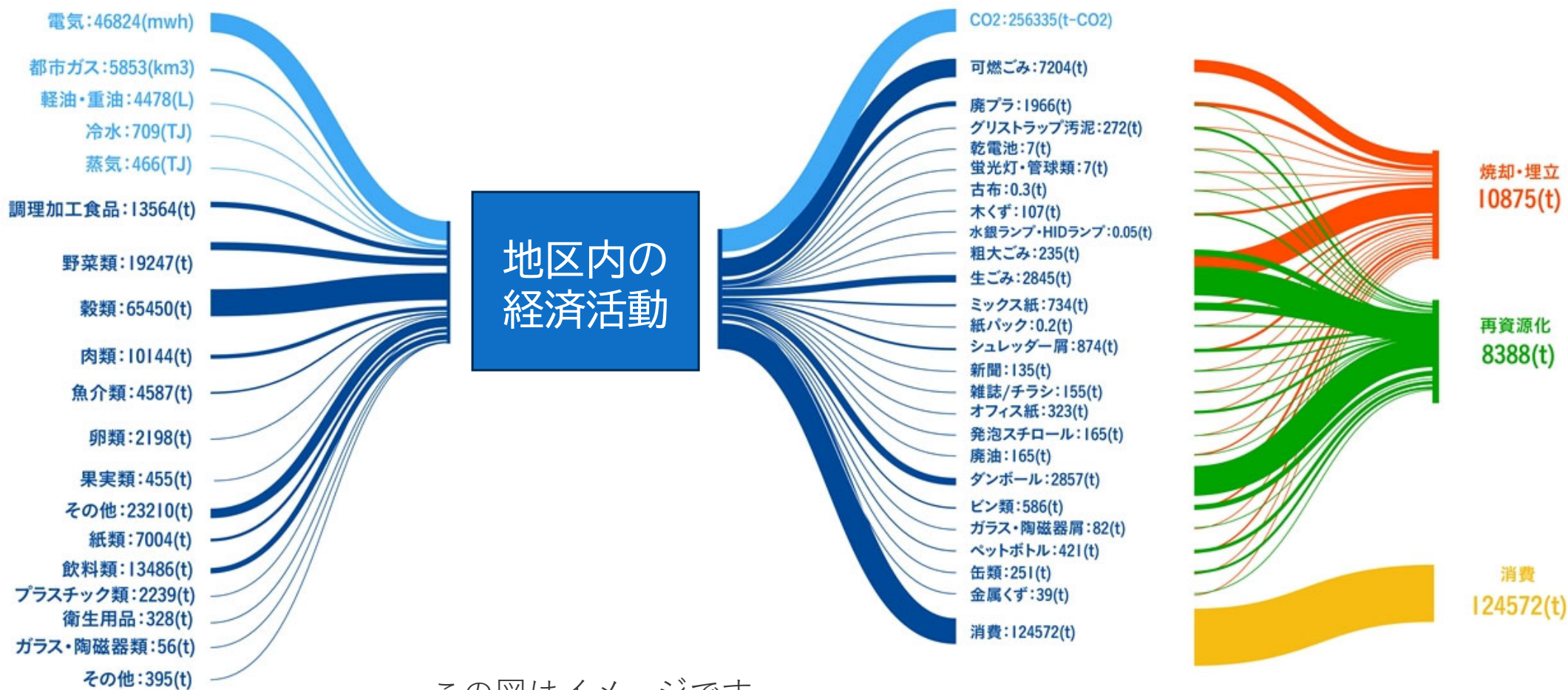


2021年度

出典：第五次循環型社会形成推進基本計画の概要

物質フロー図

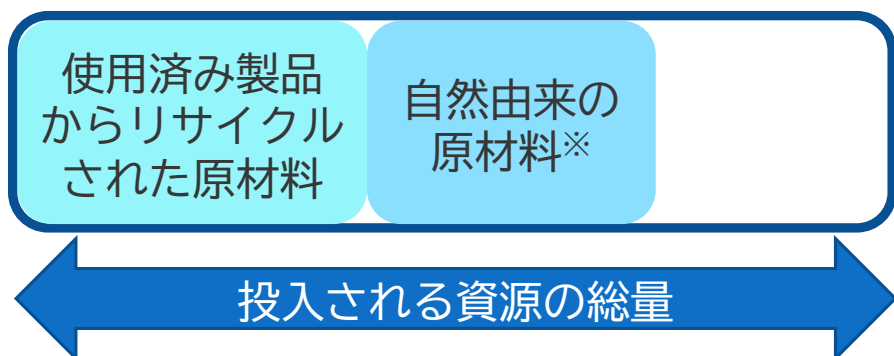
「資源循環」を可視化するとしたら



この図はイメージです

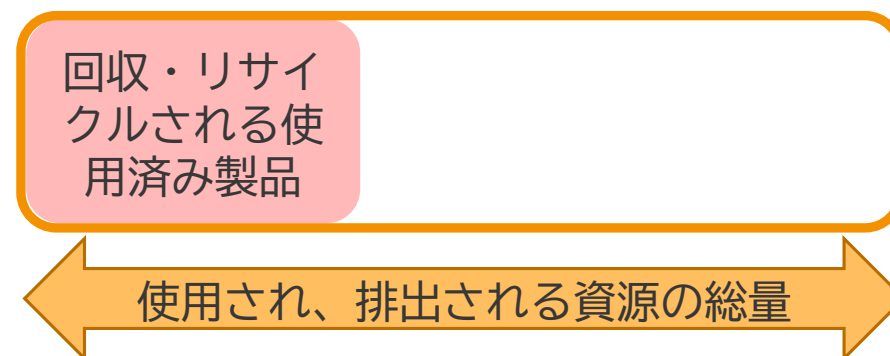
- 課題：循環率の把握と管理
- 一定の範囲におけるサーキュラーエコノミーの進捗が評価できていない
- 国際的には、一部で、ものの流れや、定量指標を用いた評価が始まりつつある

サーキュラー・インフロー率



※持続可能な方法で生産されたもの
(例：認証取得)に限る

サーキュラー・アウトフロー率



これまでの資源循環の取組の一例

みなとみらい地区（脱炭素先行地域）において、資源循環の推進を目指す
みなとみらいサーキュラーシティ・プロジェクトを2023年3月より実施

2024年度の実証実験を経て、2025年1月から地区23施設が連携し、
ペットボトル「ボトルtoボトル」水平リサイクルの社会実装を実現



ヨコハマSDGsデザインセンターとの連携事業



横浜市における新たな取組

日本で初めてとなる

地区内における資源の流れを可視化する取組にチャレンジ

脱炭素先行地域に選定されている
みなとみらい地区にて実施



取組における連携事業者

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER
YOKOHAMA

ヨコハマ SDGs デザインセンター



Harch



RECOTECH

参画主体名（計13主体・五十音順）

神奈川県 神奈川大学 みなとみらいキャンパス

みなとみらい21熱供給センタープラント

クイーンズスクエア横浜 全体共用部分・
専有クイーンモール等部分

みなとみらいグランドセントラルタワー

クイーンズスクエアB・C

横浜赤レンガ倉庫

京急グループ本社

ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル

パシフィコ横浜

横浜みなと博物館

MARK IS みなとみらい

横浜ランドマークタワー

MARINE & WALK YOKOHAMA

資源循環を可視化する目的

目的

- ・サーキュラーエコノミーを評価する指標を確立
- ・具体的なアクションを検討する土台を整備

現状分析

可視化・データ化の仕組みづくり

戦略策定

データに基づく方針決定・アクション
ex. 有効利用の余地がある資源の洗い出し



サーキュラーエコノミー推進による温室効果ガス排出量削減

アウトプット・イメージ

